

2016年度以降のカリキュラム適用者

『リベラルアーツ学群専攻プログラム履修モデル集』について

リベラルアーツ学群では、2年次春学期から、専門科目の履修が本格的に始まります。この冊子は、みなさんが専門科目の履修を行っていくためのガイドとして編集したものです。

この冊子は、各専攻プログラムの「履修の手引き」と「履修モデル」から構成されています。

●履修の手引き

- ・「履修の手引き」には、各専攻プログラムから履修のしかたについてのメッセージが載せられています。ある程度自分の志望する専攻プログラムが絞れている人は、それらのメッセージを参考にして履修を行って下さい。
- ・とくに、専攻プログラムのカリキュラム構成が「積み上げ型」か「自由履修型」かで、1・2年次の望ましい履修のあり方が違ってきますので、その点を注意するようにして下さい。

●履修モデル

- ・「履修モデル」とは、各専攻プログラムの科目をどのように履修していったらよいかを、例として示したものです。各専攻プログラムを修了するためには32～36単位の科目を修得することが必要ですが、どの専攻プログラムも、それをほかに上回る数の科目を準備しており、みなさんが、その専門分野の中でさらにテーマを絞った履修ができるようになっています。「履修モデル」とは、そうしたモデル・カリキュラムの例を示したものです。
- ・各専攻プログラムの「履修モデル」ページには、その専攻プログラムの全科目をカテゴリーとレベルに応じて分類表示したマトリックスを記載しています。その中で「◎」のついている科目はメジャーの必修科目（教職モデルの場合は、教科に関する科目の必修科目）です。また、「○」のついている科目は、その履修モデルに該当する推奨科目です。
- ・また、「その他の推奨科目」には、その専攻プログラム科目以外のお勧めの科目を記載してあります。
- ・リベラルアーツ学群には、33の専攻プログラム、およびマイナープログラムがありますが、この冊子には、各専攻プログラムから提示された「履修モデル」が掲載されています。自分の関心ある専攻プログラムの「履修モデル」をよく読んで、科目履修の参考にして下さい。

この『履修モデル集』は、みなさんが自分の学習計画を立てる際の目安として作成したものであり、このように履修することを義務付けているわけではまったくありません。むしろ私たちは、みなさんが、Independent Learnerとして、自分の関心と視点に立って、独自の「履修モデル」を作成することを期待しています。

リベラルアーツ学群の科目編成はきわめて自由であり、内容を絞る、いろいろな分野を組み合わせる、その専門分野のさわりを学ぶ、など、さまざまな組み立て方が可能です。ぜひみなさんも、独自のテーマ性をもって自分の学習に取り組んでいって下さい。そして、「履修モデル」を通じたリベラルアーツ学群ならではの新しい学びの世界を、ともに切り開いて行きましょう。

リベラルアーツ学群教員一同

社会学専攻プログラム

履修のしかた

「導入」カテゴリーの「社会学概論」は、メジャー、マイナーとも必修です。「社会学概論」は、1年生の段階から履修できますので、1年生のうちに履修しておくといでしょう。また、専攻プログラムの科目には入っていませんが、「社会理解(戦後日本の社会変動)」も1年次に履修しておいた方がよい科目です。

2年次には、「理論・方法」カテゴリーのうち、まず「社会調査法」と「社会学史」を履修しておくといでしょう。「社会調査法」と「社会学史」は、メジャーの場合は必修です。マイナーの場合は選択ですが、履修することをお勧めします。

「理論・方法」カテゴリーには、「比較社会学」「社会学史」といった理論系科目と同時に、「社会調査法」「社会環境調査法」「社会統計学」といった調査系科目が配置されています。社会学において、理論と調査はどちらも欠かすことのできない重要なものであり、ぜひ両者をバランスよく学んでいただければと思います。社会的な視点・発想を身につけていくためにも、「理論・方法」カテゴリーの選択科目は、必要単位数以上、履修することをお勧めします。

「トピックス」カテゴリーには、社会と文化に関するさまざまな応用科目が用意されており、基本から応用へとスムーズに展開していくことができるような科目構成になっています。

なお、専攻プログラムの授業科目には入っていませんが、3年生で「専攻演習Ⅰ・Ⅱ」(ゼミ)、4年生で「卒業論文」を履修し、社会的なものの見方・考え方をじっくりと養っていく取り組みを行うことを強く勧めます。

他の専攻プログラムとの関係

社会学専攻プログラムをメジャーとする場合、たとえば以下の専攻プログラムをマイナーとして推奨します。ただし、これらはあくまで推奨例であって、社会学専攻プログラムと組み合わせることが可能な専攻プログラムは、これら以外にも多く存在します。

- (1)文化人類学専攻プログラム。文化人類学は社会学の隣接専攻プログラムです。
- (2)アメリカ地域研究専攻プログラム・アジア地域研究専攻プログラム・日本地域研究専攻プログラム。それぞれの地域の社会と文化についての研究という点で、社会学専攻プログラムと共通点を持ちます。
- (3)公共政策専攻プログラム。私たちが直面する現代社会の問題を考えるという点で、社会学専攻プログラムと通じるものがあります。

留学・教職その他

- ・異文化との接触は社会的な思考力を深めるために非常に有効です。留学・海外研修等を経験されることを強くお勧めします。
- ・教職については、中学社会、高校の地歴・公民の免許取得に必要な科目を提供しています。

学生へのメッセージ

社会学は、社会と文化を研究する学問です。私たちにとって、自分の社会・文化は、とても身近な「あたりまえ」のものとなっており、日常生活の中では、社会・文化に関する「常識」的なものの見方・考え方にとらわれることも少なくありません。社会学は、そうした「あたりまえ」の「常識」から一歩距離をとり、「常識」の背後に隠された世の中のしくみを解明しようとする学問なのです。ぜひ社会学のおもしろさを体験してみてください。

社会学専攻プログラムでは、社会と文化についての学びを通して、国際社会や地域社会において、自分の文化とは異なる多様な文化を理解し、互いの違いを認め合いながら共生していくことのできる、幅広い視野を備えた人材を育成します。

社会学専攻プログラム

1 社会学・履修モデル

社会学専攻プログラムは、「導入」「理論・方法」「トピックス」という3つのカテゴリから構成されていますが、積み上げ型ではなく自由履修型のカリキュラムですので、特に決まった学習順序はありません。

社会学専攻プログラム科目

level カテゴリ	1000				2000				3000				4000			
	推奨	科目コード	科目名	単位	推奨	科目コード	科目名	単位	推奨	科目コード	科目名	単位	推奨	科目コード	科目名	単位
導入	◎	SOC1000L	社会学概論	4												
理論・方法					◎	SOC2110L	社会学史	4	○	SOC3020L	社会統計学	2				
					◎	SOC2021L	社会調査法	4	○	ENV3230L	社会環境調査法	2				
					○	SOC2130L	比較社会学	4								
トピックス		INT1000L	国際協力入門(NGO論)	4	○	SOC2140L	家族社会学	4	○	SOC3150L	地域社会学	4				
		ANT1000L	文化人類学	4	○	SOC2131L	文化社会学	4	○	SOC3130L	現代社会研究	4				
						AMS2140L	アメリカの文化	4	○	SOC3250L	社会学特講	2				
						POL2170L	国家論	4		AMS3150L	アメリカ女性論	4				
						PSY2140L	社会心理学	4		ANS3381L	アジア女性論	4				
						INT2111L	民族研究	4		INT3341L	持続可能な開発	4				
										ETH3320L	社会思想史	4				
										○	SOC3350L	環境社会学	4			
										ECO3150L	社会政策	4				

※教職課程概論科目は記載していません。

その他の推奨科目 ※〔 〕内は単位数

- ・社会理解(戦後日本の社会変動)[2]
- ・専攻演習Ⅰ[2]
- ・専攻演習Ⅱ[2]
- ・卒業論文[4]